



しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標「自ら学ぶ子供」 R7,12,5 No.28

郡築小ホームページ

教職員による読み聞かせ

先月、朝自習の時間に職員による読み聞かせを行いました。

図書の読み聞かせには、子供の言語能力や想像力、集中力を高めるほか、共感力や情緒の安定にもつながる効果があると言われています。また、親子のコミュニケーションの活性にも役立ちますので、ご家庭でもされてみてください。できるときに、できる時間だけで構わないと思います。



保育園児との交流

先月、1年生は、小学校区内にある3つの保育園から園児を招いて、「交流会」を体育館で行いました。

この交流会が、保育園の園児にとっては、就学前後の環境変化にスムーズに適応し、心身ともに安定して成長することや、小学校への憧れと安心感を抱き、いわゆる「小1プロブレム」の解消につながれば幸いです。また、小学校の児童にとっては、自分の成長を実感する中で、思いやりや自立心の伸長につながったことと思います。



八代小学校体育研究会の授業研究会が行われました

先月、八代小学校体育研究会の授業研究会が本校で行われました。

当日は、八代市立及び氷川町立の小学校の体育研究会員が見守る中、本校教諭の指導のもと、6年の体育「ボール運動」(ゴール型:サッカーを基にした簡易化されたゲーム)が行われました。

子供たちは、運動が得意、不得意に関わらず、みんな楽しそうに声掛け合いながら運動していました。



八代特別支援教育研究部会の授業研究会が行われました

先月、八代特別支援教育研究部会の授業研究会が本校で行われました。

当日は、八代市立の小学校の特別支援教育研究部会員が見守る中、本校の教諭の指導のもと「自立活動」の授業が行われました。

「友達のキラリ(よいところ)を伝えよう」の目標のもと、子供たちは、タブレットPCを活用して、友達のよいところや興味・関心があることなどについて紹介するプレゼンテーション用スライドを真剣に作成していました。子供たちのタイピングや操作の素早さに感心しました。



6年生は修学旅行に行ってきました

先月、6年生は原爆が投下された長崎市に出かけ、被爆者の方のお話を聞いたり、原爆遺構や写真資料を見たりして、戦争の悲惨さや平和の尊さなどを学びました。

被爆者の方のお話では、長崎原爆被災者協議会長であり、日本被団協代表委員でもあられる田中 重光様(84)からお話を聞きました。田中様は、昨年、日本被団協に贈られた「ノーベル平和賞」の授賞式にも出席された方です。

田中様は、子供たちに、戦争が起きた理由や核爆弾が製造された理由、日本に落とされた理由、被爆時の悲惨な状況、被爆後に受けた差別の苦しみなどについて、分かり易くお話いただきました。

講話後に、一人の子供の質問に答えられた田中さんの言葉を紹介します。

- ・子供:「田中さんは、なぜこのような講話をされるのですか?」
- ・田中様:「やられたらやり返すから戦争が起きる、そして人々が苦しみ、悲しみ、差別が生じます。」「私たちはやり返すのではなく、その時の悲惨な状況を伝えて、二度と同じ悲劇、過ちが起こらないように語り続けています。」

この教えが、今後、安心・安全で道徳的な社会を築いていく子供たちの心の中に生き続けていくことを切に願います。同時に、学校教育でも、事ある毎に子供たちに伝えていきます。

